

## 第5回火山都市国際会議における取り組み

### ■はじめに

火山都市国際会議（Cities on Volcanoes Conference）は、人々が火山とともに暮らすにはどうすれば良いかをテーマに議論を行う場として、世界各地の火山のふもとの都市で開催されています。

これまで、第1回イタリア・ナポリ、第2回ニュージーランド・オークランド、第3回ハワイ・ヒロ、第4回エクアドル・キトで開催され、第5回はアジアで初めて、長崎県島原市で開催されます（平成19年11月19日～23日：主催 島原市・日本火山学会）。

島原市は1990年～95年に発生した雲仙普賢岳の噴火による甚大な被害を受けた町です。今回、地元の方々の熱心な努力により会議の開催が決定し、町を挙げての準備が着々と進められています。



写真1 火山都市国際会議島原大会会場  
（雲仙岳災害記念館・島原復興アリーナ）

### ■地元住民が参加できる催し物

期間中の催しとして、学術プログラム・巡検・フォーラムが予定されています。

学術講演会では、科学的な火山の研究発表に加え、「火山警報」、「長期的な火山災害とリスクの評価」、「火山のリスクを軽減する長期的土地利用」といった火山防災行政をテーマにしたものや、

「活火山との共存による健康災害」、「教育と広報活動」といった火山周辺での生活に直結したテーマが議論される予定です。

フォーラムは盛りだくさんで、住民が参加しやすいテーマがあふれています。「被災体験者と科学者との交流会」では、被災体験者が当時の火砕流・土石流の恐怖や復興への歩みを語り、意見交換を行います。

また、子供向けの「子ども火山フォーラム」や「火山子どもQ & A」では、子どもたちが火山について調べた成果の発表や、子どもたちが火山学者へ直接質問できる機会を設けます。

この他、食材をつかって火山現象の実験をする「キッチン火山の実験と解説」や「災害ボランティアフォーラム」なども開催されます。これらを通し、地元の人々が気軽に参加できるようにプログラムが計画されています。

### ■“市民おもてなしプログラム”

今回の会議は海外からの参加者も多数予想されます。海外からのお客様へのもてなしとして長崎弁の解説も含まれた英語のガイドブックが用意され、街角や商店街、公園等で市民による交流イベントが予定されています。

また、事前の準備や当日の運営の強力な助っ人として、市民から英語ボランティア・観光ボランティア等を募集しています。

このような試みは、海外からのお客様に雲仙普賢岳とともに暮らす人々の生活を体感してもらう貴重な取り組みと思われます。

### ■おわりに

防災科研では、この会議を後援するとともに学術会議の企画・調整に参加して運営の協力を当たっています。会議開催まであと数ヶ月となった今、地元は期待にあふれ、多くの来客をお待ちしています。

（火山防災研究部 藤田英輔）